

『日本語に主語はいらない』について

寺尾友豪

『学校文法、校門を出^でず』という言葉をご存じだろうか。学校で学んだことは、社会では役にたたない、とのことだが、文字通り、文法は役にたたない。

若い頃、日本語文法に興味をもち、大槻文法、橋本文法、時枝文法などの本を買い求め、勉強してみたのだけれど、どれも納得がいかなかった。

『この文の主語はどれですか』などの問題では、判らんなあ、という思いを何度もしました。

また、英語では、自己紹介するとき、“I am ……” と、“I” を繰り返して使ってもおかしくはないが、日本語で自己紹介するとき、

紹介 日本語に主語はいらない

『私は、……』と、『私は』を繰り返す使
と、意味が違ったり、変に聞こえたりします。

いつ頃だったろうか、日本語文法に悩んだこ
とも忘れてしまっていたとき、
金谷武洋氏の

日本語に主語はいらない 百年の誤謬を正す

に出会いました。

一読、目の覚める思いでした。

『明治期、英語文法を下敷きにして、日本語の
文法を作った。それが間違いのもと。』という考
えにも納得しました。

フランス語人の夫人、フランス語圏のカナダ
の大学で日本語を教える、という著者の位置が
百年の誤謬を正すチャンスを生んだのでしょ
うか。是非、著書を手に入れて読んでくださ
い。

M E T I E R

O
H
S
N
E
S
A
H
S
N
A
D
O
K



講談社選書メチエ 230

日本語に

主語は

百年の
誤謬を正す

いらぬ

金谷武洋 「愛らしい」「赤ん坊だ」「泣いた」——
日本語の基本文はこの3種で必要十分である。

英文法の安易な移植により生まれた日本語文法の

「主語」信仰を完璧に論破する、
すべての日本語話者、必携の書。

2002. 第3刷



金谷武洋 (かなや・たけひろ)

1951年北海道生まれ。東京大学教養学部卒業。

ラヴァル大学で修士号(言語学)、モントリオール大学で
博士号(言語学)取得。専門は類型論、日本語教育。

カナダ放送協会国際局などを経て、現在、モントリオール
大学東アジア研究所日本語科科長。 2002.

著書に、『JOURNAL CAJLE』(共編書)などがある。